

2010年8月16日

新エネルギー導入促進協議会 代表理事 石谷久様

石狩海岸の風力開発を考える会

代表 小川 巖

(社)北海道自然保護協会

会長 佐藤 謙

日本風力開発の銭函風力発電施設に対する 補助金交付見直しについての要望書

㈱日本風力開発(本社・東京)が、一般社団法人・新エネルギー導入促進協議(以下・貴協議会)の補助金事業を使って、小樽市銭函の海岸線に建設を予定する風力発電施設について、日本風力開発は建設予定地に近接する札幌市民との話し合いを不十分のままにしています。貴協議会の補助金交付は、申請前の地元住民の合意を前提としており、日本風力開発の計画は要綱に反します。日本風力開発の補助金交付の見直しを求めます。

日本風力開発は、今年6月22日に、同社が小樽市銭函地区で建設を計画している風力発電施設に関する住民説明会を札幌市の手稲区民センターで開催しました。この説明会では、風力発電施設の稼動に伴い全国各地で発生している低周波の健康被害や、建設工事計画そのものについて多数の質問が出されました。日本風力開発は、この説明会における質問を持ち帰り、後で回答することを伝えていますが、次回の具体的な日程や場所については、いまだ公表していません。にもかかわらず、6月中に、本年度分の補助金申請を新エネルギー導入促進協議会に提出しております。

風力発電施設の建設予定地周辺には、札幌市民が生活する住宅地が近接し、札幌市や小樽市から生徒が通学している道立高校があります。この風力発電施設から発生する低周波による健康被害を受ける可能性がある住民は、施設が建設される小樽市ではなく、札幌市に圧倒的に多く住んでおります。

また、近接する海岸は、夏になると、海水浴場に札幌を中心にしてたくさんの人々が訪れる、札幌市民または道民にとって重要な憩いの場となっております。さらに、この地域の海岸植生は日本でも数少ない自然のままの砂丘植生・海岸生態系が保存されているため、自然を守り観察する格好の場所として、市民・自然愛好者の利用が頻繁に行われております。すなわち、人間が生活する場としても人間が自然を守り利用する場としても、この地域は非常に重要な場であり、それらに悪影響を及ぼす風力発電施設が建設されるという問題が生じたこととなります。

例えば、鳥類を取り上げ影響評価について述べますと、以下の通りです。「錢函風力発電事業に係る自然環境調査(猛禽類・昆虫類追加調査) 結果速報版」(平成21年11月20日、パシフィックコンサルタンツ株式会社)はわずか数日間の調査結果であり、調査が不十分と言えますが、希少猛禽類に関しては、以下の2点が重要です。第一に、ミサゴは、近隣で繁殖しておりますので施設計画地が重要な餌場であると考えます。また、ミサゴは風車建設地点の周辺をピンポイントで飛翔しておりますので、風車への衝突事故や餌場が利用できなくなることによる繁殖への悪影響が危惧されます。第二に、オジロワシは、風車への衝突事故死がもっとも多く確認されている猛禽類ですが、この計画地も越冬期間(11～4月)の滞在場所、餌場として利用されていることが十分考えられます。事業者は12月に3日間の調査を行うと述べていますが、最低限2～4月にも同様な調査を行った上で、影響を検討する必要があります。

上記速報版では、猛禽類以外の鳥類についても、石狩地方で極めて希少なアカモズやシマアオジの生息を示しております。アカモズは、この地域を石狩地方で唯一のまとまった繁殖地としている可能性があり、シマアオジについてもこの地域での繁殖可能性があります。さらに、渡り鳥について、この地域が渡りの主要ルートになっている可能性があります。したがって、猛禽類だけではない鳥類全般について、渡り鳥であれば渡りの時期における行動を押さえるなど、慎重な調査結果を得てから影響を検討する必要があります。

本来、地元の住民に対する説明会は、補助金申請前に行う手続きであることが、補助金交付団体の「新エネルギー導入促進協議会」の要綱に明記されています。しかしながら、建設予定地に近接する札幌市民から健康不安の声や建設工事についての疑問の声が多く寄せられてきたにもかかわらず、日本風力開発は6月21日を期限とする「新エネルギー導入促進協議会」の「新エネルギー等事業者支援対策事業」の補助金(二回目)を申請しました。これは、住民合意を前提とする補助金交付の趣旨に反するものです。

このような不適切な手続きによる補助金申請について、再度、申請のやり直しを指導されるよう貴協議会に要望します。